1	名古屋	稲葉地小学校	イエダ　ショウヘイ 名前　　家　田　　翔　平

分科会番号	１８	分科会名	情報化社会の教育

研究題目　　自分に合った方法で情報を活用して、進んで学び合おうとする児童の育成
～イエダプランでやってみよう！～

研究要項

１　主題設定の理由

私は児童に自分の学び方を自分で選び取り、進んで学び合おうとするようになってほしい。それは、児童がこれから生きていく時代は、これまで以上に予測困難な時代となり、その時々の自分の状況に合った問題解決の方法を見付けることが求められると考えるからだ。また、情報過多な現代社会において課題を解決しようとする時に、いくつもある情報をすべて鵜呑みにするのではなく、自分なりに整理・分析することで、自分に合った問題解決の方法を選ぶことにつながると考える。

名古屋市では「ナゴヤ学びのコンパス」(名古屋市教育委員会・2023)を基に、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもの育成を目指して、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」という三つの学びの姿を重視している。私が担任する６年生の学級でも各教科の学習で、児童が学習方法を自己選択したり、仲間と学び合ったりすることを通して、自律した学び手の育成を目指して実践を重ねてきた。社会科の学習で課題について調べる際には、教科書やタブレット等を使用し、詳しく知ろうと前向きに取り組んでいた。しかし、児童の中には、たくさん調べたことに満足してしまい、調べたことを整理したり分析したりしないまま、表現しようとする児童がいた。その結果、つながりが不十分な説明になってしまったり、詳細を尋ねられても具体的に説明できなかったりした。

「教育の情報化に関する手引き」(文部科学省・2020)の情報活用能力調査結果の概要によれば、「複数のウェブページから目的に応じて、特定の情報を見つけ出し、関連付けること」「情報を整理し、解釈すること」「条件(受け手の状況等)に応じて情報発信すること」に課題があると指摘されている。これは、本学級でも同様であり、収集した情報を整理したり分析したりすることができていないことに原因があると考えた。そこで私は、目指す児童像を「自分に合った方法で情報を活用して、進んで学び合おうとする児童」として、社会科の実践を通じて、その育成を目指すことにした。

自分に合った方法で学習するための手立て１と、進んで学び合おうとするための手立て２を用いる方法を「イエダプラン」と名付け、これを用いて目指す児童像に迫ろうと考えた(資料1)。

資料１　研究構想図「イエダプラン」

２　研究の手立て

(1)　手立て①　「プわふレ」シート

情報を活用するための自分に合った方法を見付けるために、ＰＤＣＡサイクルを基にした「プわふレ」シート（資料２）を作成した。「プわふレ」シートを用いて、学習の計画と振り返りをする。

資料２　プわふレシート

「プわふレ」シートでは、その時間の学習のプラン、学習を通して分かったこと、学習方法の振り返り、次に向けた学習方法のレベルアップの方策を考えて記述する。

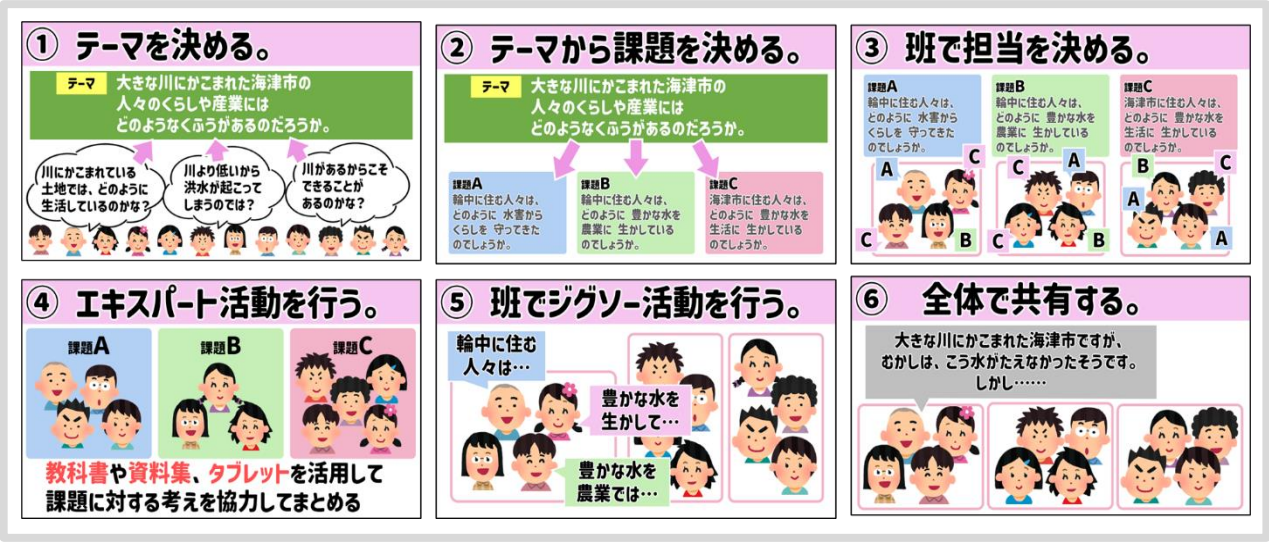
シートへの記入を毎時間取り入れることで、児童一人一人が、学習を自分事として捉え、情報活用の方法を改善していくことができると考えた。また、提出した「プわふレ」シートを基に、教師が個別に指導することで、児童が自分自身に合った方法で、情報を整理・分析できるように支援することができると考えた。

(2)　手立て②　知識構成型ジグソー法

単元を通して、三宅（2011）が考案した知識構成型ジグソー法（資料３）を取り入れる。

児童は班の中でテーマに迫るためのいくつかの小さな課題ごとに分かれ、同じ課題を選んだ者同士で課題を追究する「エキスパート活動」を行う。その後、自分が学んだことを班の友達に教え合う「ジグソー活動」を行う。そして、学び合ったことを基に大きな学習課題に対する考えを話し合いながらまとめていく。

知識構成型ジグソー法で共に大きな学習課題の解決を目指す中で、共通の目標に向けて協力し、課題解決のために互いの協力が必要であることを認識することで、進んで学び合おうとすることができると考えた。



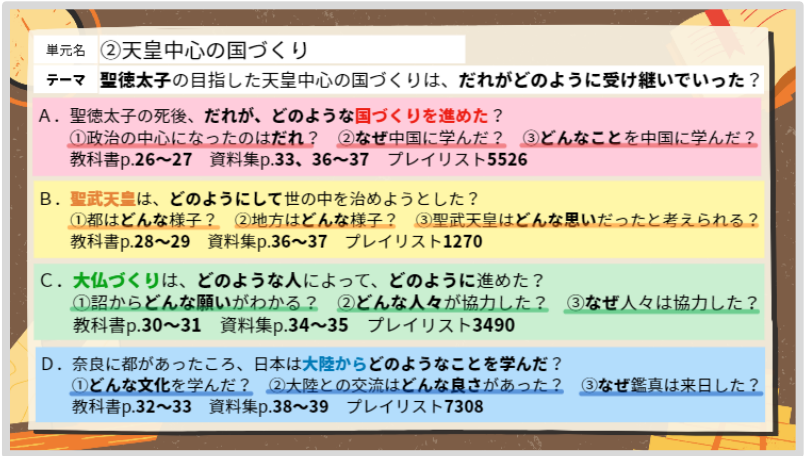
資料３　知識構成型ジグソー法

３　実践の様子

本実践は、「天皇中心の国づくり」（６時間完了）で行った。

(1) 問いづくり

まず、豪族が争う時代に摂政の聖徳太子が蘇我氏と協力して天皇中心の国づくりをしたことを確認した。天皇中心の国づくりのために尽力した聖徳太子が志半ばで倒れたことを読み取った上で、「天皇中心の国をつくりたいという考えは、どうなったと思いますか」と全体に問い掛けた。すると、聖徳太子の死後の年表を見て、「遣唐使」が送られたという記述から中国の文化や制度を取り入れようとする動きが続いたのではと予想する児童や、「新しい法律」（大宝律令）が定められたという記述から天皇中心の国づくりのためのルールだったのではないかと予想する児童がいた。児童の意見から、本単元のテーマを「聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰がどのように受け継いでいったのか」とし、それに迫る課題を設定した（資料４）。



資料４　単元のテーマと課題

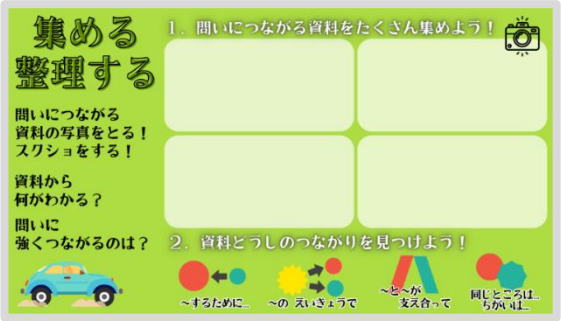
(2) エキスパート活動

班の仲間で課題の担当者を決め、同じ課題を担当する児童で集まり、エキスパート活動を行った。エキスパート活動１時間目は、最初に「プわふレ」シートに情報収集のプランを立てた。机間巡視しながら「どうしてその方法にしたの」と問い掛けると、「まずは教科書の文章を読んだ方が分かりやすそうだから」「NHK for School の動画で見た方が分かりやすそうだから」などの返答があり、それぞれ自分で選んだ方法で活動を始めたことが分かった。

情報収集は、協働学習支援ソフトの「共有ノート」(共同編集が可能なページ) 上で配布した「収集・分析シート」(資料６) を使った。このシートを、共有ノート上（資料７）で使うことで同じ課題について調べる仲間が、何に注目して調べているのかを確認しながら、情報収集を行った。共有ノートを使って収集することで、仲間が調べていることが分かりやすいこともあり、「遣唐使って遣隋使と目的はほぼ同じだよね」「この頃の日本って、大陸からの影響をすごく受けているんだね」と、調べたことについての会話が自然と生まれた。授業の終わりに「プわふレ」シートに、学習方法の振り返りやレベルアップの方策などを記述させると、ある児童は、自分で調べたことだけでなく、仲間と情報共有することで、更に多くのことが分かるという記述がいくつもあった（資料８）。

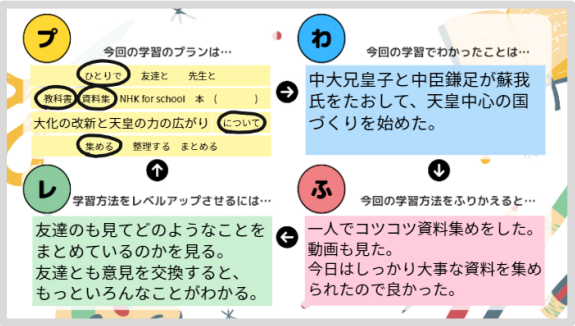
エキスパート活動２時間目も、前回と同様に「プわふレ」シートにプランを立てることから始めた。多くの児童が、前回のシートのレベルアップの方策を受けて、情報の偏りがないように使うメディアを変えようとする記述が多かった。また、情報の収集だけでなく、整理も行おうとする児童が多いようだった。

資料５　エキスパート活動（情報収集）



資料６　収集・分析シート（全体）

資料７　収集・分析シートを編集する共有ノート



資料８　「プわふレ」シート①（情報収集）

そこで、収集・分析シートの下部（資料９）を示しながら、整理や分析の方法を全体に伝えた。前時までに集めた情報の中の大切な言葉に下線を引いたり、情報同士を矢印で結んだり、内容ごとに分類したりすることで、結び付きが可視化していった（資料 10）。また、重複した情報や本題とは関係のない情報については削除するなど、取捨選択する姿も見られた。中には、紙面で整理したいと申し出た児童もおり、自分が整理しやすい方法を選ばせた。多くの児童が、このエキスパート活動２時間目で整理・分析を終わらせた。

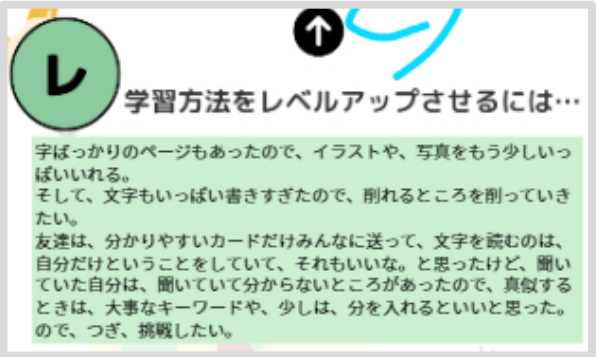
エキスパート活動３時間目には、多くの児童がまとめの活動を計画した。まとめ方についても、児童に選ばせた。スライドや紙芝居、ポスターなどを提示し、「この方法なら一番伝わりそうだというものを選んでみよう」と問い掛けた。タブレットでまとめる児童もいれば、紙面でまとめる児童もいた。いずれの児童も、前時までに情報の結び付きを整理したものを、それぞれの形式の特性に合わせてまとめた。まとめ終わったものは自分で読み返すだけでなく、同じチームの仲間と読み合う練習をさせた。練習する中で、仲間のまとめ方のよさに気付き、更に分かりやすくしようと改善する児童の姿もあった。ある児童は「プわふレ」シートに、スライドの文章量が多すぎることに気付き、イラストや写真を付け足したり、文字を削ったり、話すことと載せることを分けたりするなど、仲間から気付いたことを自分のまとめに生かそうと記述していた（資料 11）。

(3) ジグソー活動・まとめ

まとめたことを持ち寄って班の仲間と集まり、調べたことを発表させた（資料 12）。互いの発表を真剣に聞き、自らノートに

資料９　収集・分析シート（下部）

資料 10　収集・分析シート



資料11　「プわふレ」シート②の一部（まとめ・表現）

資料 12　ジグソー活動

メモをする児童もいた。分からない言葉があった時には、分かったふりをせず、エキスパートの仲間に尋ねたり、自ら教科書で確かめたりする児童もいた。また、理解や納得ができないことは、班全員で教科書を開いてじっくり読んでから話し合おうとする児童もいた。

4　成果と課題（○：成果、●：課題）

○　「プわふレ」シートを継続的に用いて活動していくことで、児童は学習のねらいを自身でよく考え、自分にとって必要な学びを自身で選択することができるようになった。そして、児童は自分自身の学びをつなげ、学びをより改善していこうと取り組むようになった。（手立て①）

○　知識構成型ジグソー法を取り入れたことで、一人一人の役割が明確になり、学習を自分事として捉え、進んで学び合おうとする姿が以前よりも見られるようになった。（手立て②）

●　教科書や資料集、動画、書籍といった各メディアの強みや弱みを理解させていなかったため、調べる方法を自己選択させる際、「なぜ教科書を使うのか」「なぜ動画を視聴するのか」という理由にまでは至っていないように見えた。（手立て①）

●　収集した情報を整理・分析することができていない児童が若干名いた。シンキングツールを用いた整理・分析の方法を分かりやすく示したり、実際に使ってみたりすることで、情報同士の結び付きを意識してまとられるようにする必要があった。（手立て①②）

5　おわりに

自分に合った方法で情報を活用して学び合おうとする児童の育成を目指して実践に取り組んできた。「プわふレ」シートと知識構成型ジグソー法という二つの手立てを用いた「イエダプラン」は、自分に合った方法で情報を活用して学び合おうとする児童を育成するために有効であったと考える。

学習の方法を自分自身で考えて実行することは、教師主導の学習とは異なり、失敗の可能性も大きくなる。学び方を児童自身に委ねることで、教師主導で行う時よりも時間が掛かることもあった。しかし、一斉指導の学習では見られない児童の生き生きと学び合う姿や、児童の内からあふれ出るやる気を感じることができた。

社会科の学習に限らず、他の教科学習でも、今回の二つの手立てを用いることで、情報を活用して進んで学び合おうとする姿が増えていくのではないかと考える。

自分に合った方法で学習することは、学びを更に豊かにすることにつながり、一人一人が自律して学び続けるようになると考える。そうした学びの先に、自分の未来を自分で創造する社会の担い手が育つと、私は考える。子どもたち自身の手で未来を創造していくために、私はこれからも児童とともに学び続け、授業改善を行っていきたい。